

令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立南住吉小	学校	児童数	140
----------	----	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.08	19.58	36.40	37.10	43.88	9.43	139.32	22.07	51.34
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	14.95	16.38	37.89	32.22	32.44	9.42	127.55	13.19	50.08
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

結果の概要

男子では8種目中4種目において全国平均を上回る結果となった。また、前回、大きく下回った20mシャトルランについては改善が見られた。コロナ禍による制限が緩やかになり、体育の時間だけでなく休み時間などにおいても体を動かす機会が増えてきた結果だと思われる。体力合計点を見ても、大阪市平均を上回った。女子は、50m走とソフトボール投げは大阪市平均を上回った。それ以外の種目は全国平均を下回っているが、その差は以前と比べ縮小している。

運動やスポーツをすることを好む児童は男子では95%、女子では85%を超えており、これらのことことが結果を上方に押し上げていると考えられる。ただ、1週間の総運動量が60分未満の児童が男女ともに10%程度見られる。420分以上が男子で53%、女子で37%いることを考えると、両極化にも歯止めはかかっていないと思われる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力づくりに関しては、業間の20分休憩や昼休みを利用して運動遊び（鬼ごっこ・長縄など）を中心とした学級遊びを行うとともに、たて割り班で長縄に取り組む「ジャンプアッププロジェクト」（長縄・幅跳び）などを計画し、運動の習慣化に努めてきた。コロナ禍の現在においても、鬼ごっこやドッジボールなどをして、活発に運動する姿が見られる。また、年間を通じてジャンピングボードを使って短縄跳びに励む児童も多い。さらに、体育専科教員が配置され、より的確なアドバイスがなされるようになり、休み時間に鉄棒に励む様子も増えた。これらの姿や「運動やスポーツをすることが好きですか」という質問に対し肯定的な回答をする児童が90%近いことから、運動習慣はある程度身についていると言える。

今後取り組むべき課題は、運動意欲の更なる向上である。これについては、運動が好きという気持ちを大切にした生涯体育につながる「自ら進んで運動に参加する」という内発的動機づけが重要であると考える。そのために、運動は好きだが体育はあまり好きではないと考える児童が楽しく学べる環境づくりとして、できる限り一人ひとりに合った場やルールを用意することやICT機器の活用、そして何よりも人と比べるのではなく、自分が「できなかったことができるようになったとき」という成功体験を味わわせることを大切にしたい。